

東京大学 理系

—Part 3—

あいかわ ひで
相川 英さん(理Ⅱ・桜蔭)

おだか み わ
小高 美和さん(理Ⅰ・桜蔭)

ふる た りく た
古田 陸太さん(理Ⅰ・暁星)

まと や かず き
的矢 知樹さん(理Ⅰ・筑波大附属駒場)

グノでは先生たちが生きている英語から教材を作ってくださいるので、興味を持って演習もできますし、先生がそのテーマについて背景を解説してくださるのも楽しみでした。

古田 陸太さん(理Ⅰ・暁星)

目次

- 入塾のきっかけ P33
- グノーブルの評判 P34
- 英単語の覚え方 P34
- 教材になる英文 P35
- 英語力が伸びたとき P36
- グノーブルの国語 P37
- グノーブルの先生 P37
- グノーブルのシステム P38
- 後輩へのメッセージ P38

※●は、この PDF フルバージョンのみの掲載項目

入塾のきっかけ

小高: 高1の冬期講習から英語で入塾しました。同じ部活の友達が3人通っていて、彼女たちが「グノいいよ」と勧めてくれたんです。友達の持っていた宿題の量が多過ぎなかったのも魅力でした。

相川: 私は高2の春期講習から英語で通い始めました。きっかけは水道橋の駅でした。グノのポスターの前を友達と通ったとき、その友達が「グノの英語はいいよ」と私に教えてくれました。この言葉がきっかけで講習に参加してみたら、本当にとても良かったのでそのまま入塾しました。

古田: 僕の場合、中学時代は別の塾に通っていましたが、宿題も多かったし、「何か違うな」と思って転塾を考えていました。グノを見つけてきてくれたのは母です。高1の冬期講習を受けてみて、「僕が求めているのはこれだ!ここは楽しい!」と思って入塾を決めました。

特に授業内演習が画期的でした。答案をその場で添削してもらえるので集中できるし、すぐに解説も聞けるから効果も上がります。もし家で同じだけの宿題をやることを考えたら、集中できずにだらだらやってしまうと思います。

的矢: 僕は学校の授業を真面目に聞いていなくて、中学の頃は英文法が苦手でした。「文法を教えてもらいたい」と思って塾を探しました。「最近グノに通い始めたけど、この塾は他とは違う」という友達の話を学校でちらほら聞いていましたし、親も調べた上でグノを高く評価していました。それが決め手となってグノの冬期講習を受けました。中3でした。

最初の授業で名前を呼ばれたのには面食らいました(笑)。それ以降、どの先生もすぐに僕たちの名前を覚えてくれるのに気づき、そんなグノ文化の中で安心して勉強ができました。



古田 陸太さん(理Ⅰ・暁星)



相川 英さん(理Ⅱ・桜蔭)

英語の勉強が面白くなった点も大きいです。グノに入って、一挙に視界が開けた感じです。グノに通っていなければ英語を好きになれなかっただろうし、受験でも確実に英語が足を引っ張っていたと思います。

グノーブルの評判

古田: 暁星では英語と数学でグノの評価が高かったです。学校や塾の先生を、生徒がディスる*のは普通のことですが、グノの先生は例外的に評判が良かったです (笑)。

※ディスる: 「小ばかにする、軽視する」。英語の dis (1980 年代に disrespect から生まれた表現) から。

小高: 私たちの学校でも、グノの先生についてはいい評判しか聞きませんでした。むしろ先生たちの話や授業の話で盛り上がっていました。

相川: 「グノは宿題が少なくていいね」とよく言われました。市販の単語帳を使わない英語の勉強も周りから羨ましがられました。他塾に通っている人の中には、学校の授業中に塾の宿題を内職している人たちもいて、「内職しないと終わらない宿題に意味あるのかな」と私は思っていました。

小高: 私も作業のように宿題をしている人たちを見て、「これではダメなんじゃないかな?」と感じていました。いやいや終えた宿題の解説を受けに塾に行くのと比べて、グノの場合、「今日も楽しみ」と思って通えました。グノに通っている人は楽しく通っている人が多かったと思います。

古田: 大量の宿題をすべてこなせば、確かに東大に受かるのかもしれませんが。でも僕は勉強を楽しみたかったし、「やってられるか!」との思いも湧きました。東大入試で必要なのは 5 教科 7 科目です。各科目の宿題が大量だったら、僕にはとてもやり切れません。グノは宿題が適量だったし、学習効果は抜群だったので助かりました。

的矢:僕は周りの評判を聞いて宿題が多い塾には通わないようにしていました。だから、宿題のキツさを経験したことがありません (笑)。グノは、宿題に対するストレスが全くありませんでした。授業も楽しみたかったので、いつも前の方に座っていました。授業に集中できるので効果が上がりました。

英単語の覚え方

小高: 市販の単語帳を使わずに、語源にさかのぼって単語を教えてくださいるのが魅力でした。それから、音読をものすごく勧めてくれるのもグノの特長です。私は音読に取り組むだけでなく、リスニングやシャドーイングにも力を入れました。毎晩寝前にやっていました。

相川: 「単語帳を使わない」「語源から教えてくれる」「音読」。これらがグノの英語の特長だと思います。特に、単語帳を使った丸暗記の負担がなく、授業内演習の復習をするだけで語彙が増えていくのはありがたかったです。

小高: 学校で単語テストがあったので、そのためだけに単語帳をやりました。でも、テストに出る単語はグノでほぼ習得していたので、テスト直前 10 分くらいの見直しで十分でした。単語帳を丸暗記したことはありませんでした。

的矢: 友達に単語帳を暗記して英語ができるようになった人もいます。そんな彼らとグノとの違いは、時間的な効率という面にも表れますが、精神面での負担にも違いが半端なく表れます。

僕にとって単語帳の丸暗記は、精神修行のようなもので、途中で心が折れてしまいます (笑)。長続きさせるのは無理です。グノでは、扱った英文を何度も音読することで単語も身につけていくのですが、音読するときには、精神的に全く負担がかかりません。授業を思い出しながら長文を読んで、単語の語源をイメージしたり、先生の冗談を思い出してクスッとしたりします。つまり、音読の時間は楽しい時間です。

単語帳の丸暗記に力を注いでいる人は確かに多くいました。でも、そんな姿を見ても焦りを感じることは全くありませんでした。僕はグノの先生に教えられた通りに音読をしているうちに自信が持てるようになりました。単語力だけでなく総合的



小高 美和さん(理 I・桜蔭)

に英語の力がついて、いつの間にか英語をスラスラ読めるようになっていましたから、毎晩寝る前に音読をすれば、「これでまた英語力が伸ばせたに違いない」と確信できて、負担も不安も感じることなく最後まで過ごすことができました。

古田:市販の単語帳にも使い道はあると思います。僕の場合、高3最初にあまりの語彙力不足を自覚していたので、1冊を短期間で仕上げて、それだけの効果はあったと思います。気分的にも少し楽になりました。ただ、それで語彙力が十分になったわけではなくて、それはあくまでもベースに過ぎなくて、授業で扱う英文に触れたり、先生の解説を受けたり、繰り返してやった音読やシャドーイングを通して、英単語が自分のものになりました。

音声教材の充実という点がグノの特長で、毎回の授業で扱う英文に必ず音声教材があります。僕もシャドーイングを何度も繰り返していたので、英文がたくさん頭の中に残りました。今でも2、3本頭の中に流れます。受験が終わったのに、夢でも英文が出てくるくらいです(笑)。すぐに思い出せるフレーズが頭の中にいくつもストックされていると、自由英作文でそのまま利用できます。とても便利でした。

小高:私はやっぱり単語帳はだめです。グノに入る前にいくつか買いましたが、すべて最初の1ページだけが完璧。でも、その先に進むのが嫌になってやめてしまいました。グノに出合えて本当に良かったと思っています。

グノではさまざまな話題の英文を毎週用意していただけて、どれもが興味の持てるものばかりでした。そんな英文を読み返すのは第一に楽しいのです。それを音読していれば、偏りなく、楽に単語を覚えられます。継続するのも全然負担ではありませんでした。

相川:単に覚えやすいだけでなく、グノのやり方は応用が利きます。語源を押さえておくと、見たことない単語に出合っても、文脈と合わせて、「この語根プラスこの語尾なら、こういう意味かな?」と推測できます。

一つの単語にいくつもの派生した意味がある場合でも、語源が分かると理解しやすくて頭に残りやすくなります。グノの授業では、語源からの意味の広がりが黒板に書かれて、ときには先生が体を使って説明してくださいます。見ているだけでも楽しいし、印象にも残ります。

教材になる英文

的矢:つまらない勉強は続きません。僕の場合、無理に気持ちを勉強に向かわせても30分やったら集中力は切れてしまって1時間は遊ぶというような、受験生とは思えないやり方しかできませんでした。

グノの英語は何時間でも続けられました。たとえば、語源を調べて一人で感心しながら、時が経つのも忘れて熱中してしまいました。音読もいつまでも続けていられました。グノの授業で扱った英文を音読するのですが、ストックしてある中から面白い英文が次から次に出てくるので、延々と読んでいても飽きないのです。

小高:社会的なテーマや科学の話題、哲学の話など、さまざまなジャンルの英文を先生が用意していただきました。私は文学的なエッセイや小説が特に好きでした。展開にワクワクさせられたり、登場人物の心理状態が面白い物語を、英語でたくさん読めました。東大では、語数の多い物語をバーっと読まなければならない問題が出題されることもあり、そういう問題にもしっかり対応できていました。

古田:確かに面白い英文が多かったですね。あんなに面白い文章を、先生はよく見つけてこられるものだと思っていました。日本のメディアでニュースになる前にグノで情報を仕入れたこともありました。

普通の受験塾だと、扱う英文は過去の入試問題ばかりだと思います。グノでは先生たちが生きている英語から教材を作ってくださいるので、興味を持って演習もできますし、先生がそのテーマについて背景を解説してくださるのも楽しみでした。復習で読み込みもしますから記憶にもしっかり残ります。僕が受けた私立の大学では、「スロー



的矢 知樹さん(理Ⅰ・筑波大附属駒場)

リーディング」に関する英文が出ました。同じ話題をグノの教材で読んでいたので、知識は既にありました。グノの英文と入試問題の英文は違っていても、筆者の言いたいことは同じでした。だから、問題を読みながら、「来た！勝った！」と心の中で叫びました（笑）。

相川:これは個人的な感想なのですが、東大を受けていたときには、英文を読んでいて面白かったのです。でも、私が受けた私立大学の英文は少しも楽しめませんでした。グノではいつも楽しめる英文が用意されていたので、あらためて恵まれていたのだと思います。

家でテレビを見ていなかったので、授業で初めてニュースを知ることよくありました。たとえば、首相官邸にドローンが落下していたニュースもグノの教材で知りました。

的矢:直近のニュース記事が英語のテキストになっていて、いつも感心していました。今年はグノの英語で AI の話題を扱うんじゃないですか？既に先生たちは AI に関する教材を準備していそうな気がします。

英語力が伸びたとき

小高:一番英語が伸びたのは高3の夏でした。夏休みの間、音読をする時間がかなりとれたからです。1学期の間に捕捉できていなかった英単語も捕捉できて、読みながら意味を取っていくのも上手くなりました。読んでいる英文が楽しくて、気がついたら英語の語順のままスラスラ解釈できるようになって、その感覚も楽しくなりました。読むスピードがとても速くなれたのがこの時期です。

相川:私が一番伸びたのは高2の夏です。春に入塾した当初は、不定詞と動名詞の違いすら分かっていない状態でした。それでもa2に入ってしまう、2週目のテストではたまたまa1に上がってしまいました。グノに入って音読が楽しくなって、夏休みには毎日2、3時間音読していたので、次のテストでは、たまたまではなくa1に残れて、高3の最初でaに上がれました。

1回読んだらもう充分だと思える英文ではやる気も起きませんが、グノで用意される英文は面白くて何回読み返しても飽きません。

※高2春はa（最上位）から、a1、a2、a3、a4の設定。11月からa5が追加されました。

古田:最初に伸びたと思ったのは、高1冬に入塾した直後でした。限られた時間でガーっと長文演習するという授業を受けたことで、長文と難単語にビビらなくなりました。知らない単語でいちいちつかえるより、内容を追いかけることが大切と気づけたのが大きかったです。

高3の直前期にも伸びたという実感を得ていました。グノでやってきたことが実を結んだのだと思います。

そもそも、グノに入ってから、一度も英語が嫌だと思ったことがありませんでした。『ONE PIECE』や『HUNTER × HUNTER』は、誰に言われなくとも自然に読み、暇があれば読み返します。それと同じ感覚で英語に取り組みました。

的矢:僕のきっかけも音読の楽しさに気づいたことです。高3の夏は一番集中的に英語の勉強ができた時期でした。構文を捉えるだけの単調な作業をして復習してもブレイクスルーは起こらないし、つまらない英文では読む気になりません。でも、面白い英文で筆者の主張に関心を持ちながら音読していると、情報や知識をピックアップするとか、いろいろな考え方に触れることに焦点を合わせられます。グノの英文を音読する習慣で英語力がついて、受験勉強として点数を取るためのやり方からも抜け出せました。

日本語からもいろいろな情報は得られますが、やっぱり、英語から得られれば、そちらの方が多し早いので便利です。つい先日、海外企業の新製品発表のプレゼンをリアルタイムで見えていましたが、英語でも全くストレスを感じることがありませんでした。Wikipediaも英語版の方が情報量も圧倒的に多し整理されていると思います。



相川 英さん(理Ⅱ・桜蔭)



小高 美和さん(理Ⅰ・桜蔭)

大学に入れば、英語で情報を収集する機会が増えるはず。そんな時、受験対策として興味の持てない文章ばかり読んできた人は、語り手や筆者の意図を理解することに相当苦勞すると思います。将来を考えてもグノはすごくいい塾でした。

古田:英語を手段として使うときに、英語のまま文章を解釈したり、英語で考えて英語で書くというグノでやってきたやり方は、必ず活きてくるはず。

相川:受験科目として英語に向かっていたら、手段として英語を使う力や習慣は身につかなかったと思います。

小高:グノでは、日本語の文章とは異なる英文の構成やパラグラフ構成も教えていただきました。大学入学後の英語学習にもそのままつながっていくはず。東大では英語の授業 ALESS*が必修科目です。グノでの勉強が早速役に立ちそうです。

※ Active Learning of English for Science Students: 通称「アレス」。1年生の理科生全員の必修講義。ネイティブスピーカーが授業を担当し、英語の科学論文を自ら1本書き上げ、その論文についてプレゼンテーションを行う。
(<http://www.ut-life.net/study/zenki/lecture/aless/>)

グノーブルの国語

古田:高3で東大国語を受講していましたが、非常に役立ちました。特に、「筆者の主張を正確に把握した上で、それを自分の言葉で採点者に伝える」という基本姿勢が身につきました。

現代文を受講した後、英語の要約の点数が上がりました。数学の記述でも、「論理関係がおかしい」「ここが足りない」などの減点が激減しました。全教科の成績アップにつながりました。テクニックが身についたというよりも、僕自身が成長できたという感じです。

グノーブルの先生

的矢:中3から英語を受けてきたので6人ぐらいの先生に習ってきました。僕がこんなことを言うのは失礼なのかもしれませんが、どの先生もすごくレベルが高いと思いました。もっと驚いたのが、どの先生も、語源からの説明とか、語順のままの処理とか、グノの英語に特長的なことはすべて一貫していたことです。

古田:先生と生徒の距離が本当に近い、ということも一貫していました。とにかくフレンドリー。先生方は生徒の名前を最初から全員覚えてくれます。

相川:私も先生方にフレンドリーさを感じました。挨拶も気持ちよくして下さいますし、名前を覚えていてくださるので親近感がありました。授業で当たるときにも名前と呼ばれると、「一人ひとりを見てもらっている」と安心します。質問にも最初から行きやすかったです。

同時に、緊張感がありました。「どこで当てられるだろう?」というドキドキ感です。そして、だいたいは分からないところで当てられます(笑)。

古田:先生方は絶対、生徒の学習状況を把握した上で当てています。一人ひとりをちゃんと見ていて、生徒の癖や学習状況まで詳細に把握しています。「古田君、思い込みの勘違いをときどきしているよね?」と先生に指摘されたときはハッとしました。

この指摘は、単に僕が慌て者だということでもあるのですが(笑)、実はもっと深く、英文構成を捉えるときに、つつい日本語の常識をあてはめがちになることへの指摘なんです。

小高:先生たちは、前の方に座っている生徒を、解説のたとえ話に使ったりして巻き込んでくることもあります。それが楽しいと同時にいい緊張感を味わえるので、私はいつも前に座っていました。

前に座ると先生との距離が近くなって、遠慮せずにリアクションできます。絶対に前の席がお勧めです。

相川:私も一番前に座っていました。前の席だと視界に他の人がいないから、1対1の授業を受けている気持ちになれて集中できます。

的矢:僕は、前から2番目ぐらいにいつも座っていました。授業を存分に楽しみたけ



古田 陸太さん(理I・暁星)

れば、前の席に座らないと損です。

古田:僕は、コミュニケーションができる距離は保ちながら、少し後ろに下がって座っていました。「先生のペースに呑まれたくない」というプライドが僕にはあって、授業全体を客観的に観察したかったのです。「先生のおっしゃっていることは100%正しいのか?」という思いも持ちながら、授業を俯瞰していました。

グノーブルのシステム

小高:振替が便利でした。私は合唱部に所属していて、文化祭前は毎日部活がありました。グノの前半の授業には間に合いませんでしたが、後半2コマで全部振り替えられたのでありがたかったです。

的矢:僕も文化祭シーズンにすごく助かりました。振替を認めてもらえたので、学校で作業をしてから塾に来て全部の授業を受けられました。

相川:私も、模擬試験のときに振替を利用しました。受付の方が快く電話対応してくださったのが印象に残っています。

古田:グノの受付は素晴らしかったです。電話するとすぐに出てもらえるし、どなたでも話が通じました。洗練されてるなって感じていました。

小高:グノの受付の方は、優しくて話しやすかったですし、電話で話が通じやすくて嬉しかったです。電話してもなかなか話が通じない経験を他ではしたことがあるので。



的矢 知樹さん(理I・筑波大附属駒場)

後輩へのメッセージ

的矢:グノはすごくいい塾でした。英語が、「無理に自分を追い込んで集中する科目」から、「楽しいからいつまでもやっていたい科目」に変わりました。受験が近づいても、受験だからという追い込まれ方はなくて、最後まで楽しく英語に取り組めて成績も伴いました。英語はグノを信じていれば大丈夫だと断言できます。

僕の英語の勉強を振り返ると、音読していないときは英語の成績が下がって、音読しているときは成績が上がりました。確実に英語の実力が伸びて安定するので、音読をしっかりすることが大切です。

相川:私にとっても、受験勉強という感覚があまりないまま、楽しく成績を上げられる塾でした。グノはみんな集中して授業に参加しているし、宿題もちょうどいい量で、本当に楽しくて、まるでオアシスのようでした。

具体的なアドバイスとしては、やっぱり音読です。直前期までリスニングが苦手だったので、2月からシャドーイングも始めたら、入試本番で成果が出ました。音読に加えて、シャドーイングにも挑戦してみてください。

古田:授業内演習に関してですが、量が多くて時間が短いので解き終わらないことは全然気にする必要はありません。とはいえ、東大入試では時間制限がきつめなので、グノの演習で時間を意識しておくと思います。

グノで勉強していると勉強が苦にならなくなります。高いレベルの演習を重ねられるので自信がつきます。雰囲気がいいので楽しく勉強できます。楽しく勉強しているうちに、気がついたら受かっています。グノはそういう塾です。

小高:私も、グノに来ること自体が楽しくて、授業を受けた後に家で音読するのも楽しくて、そのうちに、受験を意識せずに英語を読めるようになりました。

長い英文をサッと読めてしまう力をつければ東大の英語は勝ちだと、私は個人的には思っています。読む時間を短縮できれば、考えることや、記述答案の作成に時間を使えます。グノを信じて、授業を楽しんで、グノについていけば、東大の問題が易しく感じられるはずです。